

英語

英語の授業で深い学びにいたるために、 「深い学びの技法」をいかに活用するか

外国語科において、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「深い学びの技法」を授業のどの場面で、どのように用いれば良いのでしょうか。

また、授業者はどのように授業を作っていけば良いのでしょうか。

生徒の学習過程と技法の関わりという視点から考えてみたいと思います。



県中教研 英語部 全県部長
長岡市立小国中学校

校長 荒川 高明

外国語教育で「深い学びにいたる」ということ

学習指導要領では資質・能力は言語活動を通して育成されるとあります。また、「深い学び」のカギとして「見方・考え方」を働かせた言語活動を行うことが重要だとしています。

県中教研では「深い学び」を「既習の知識や技能をもとに新たな知識や技能を関連付け、精緻化するなど思考や認識が高度化して

いる様相」としています。言語活動で①場面・目的・状況を理解し、②見通しをもち、③目的達成のためのコミュニケーションを行い、④英語の正確さや表現の適切さを向上させていくことにより、「思考力・判断力・表現力」が高まり、深い学びにいたるのだと考えます。ここに技法を位置付けることで授業者の意図が明確になります。

深い学びにいたる「学習過程」と「深い学びの技法」の工夫

今年度、各地区の実践では以下のような単元（題材）を設定し、深い学びの姿を目指しました。

- 海洋ごみ問題について読んだうえで、自分の意見や考えを加え、伝え合う活動。環境問題を自分事として捉え、自身の発話を練り上げていく。
- フィリピンの学生が知りたい日本文化についてオンライン会話を行う。伝えきれなかった内容やもっと伝えたいと思った内容についてメールを書く。
- 総合的な学習と関連させ、自分が興味・関心がある街づくりの視点を選び、地元を知ってもらうための30秒CMを作成する。
- 生徒自身が選択した「日本のおすすめの○○」をALTに伝える、という単元末課題に向けて、やり取りの質と量を段階的に高めたり、増やしたりしていく。

生徒の学習過程



学びの技法 No.18
生徒の振り返りによる
形成的評価は、次の
授業を構想するう
えで重要（指導と評
価の一体化）

設定の工夫 深い学びの技法No.1・3

- ・目的・場面・状況が明確な課題であること。
- ・生徒にとって身近な題材や課題であること。
- ・自分自身に関連付けられる課題設定であること。

生徒が目的意識をもてるようにする

思考・解決の工夫 深い学びの技法No.8・9・10

- ・思考を深めるために考えの過程を視覚化する。
- ・個人から仲間へ、言語面と内容面で練り合いや練り上げをする。学び合いによる再考と改善。
- ・やり取りや中間指導を経て、自分の考えを再構築する。

- ・「他者の考えを聞きたい」という生徒の思いを引き出せると良い
- ・中間指導を行うタイミングを考える

表現の工夫 深い学びの技法No.14・15・16

- ・ステップごとの振り返りにより現状把握し、見通しをもたせる。
- ・獲得した知識・技能を活用して発表ややり取りを行う。知識を活性化させ、定着を図る。言語知識を蓄積・修正する。

- ・モデル文（ゴールの例）があると、見通しがもちやすい
- ・Chat等自己表現活動の繰り返しにより、話す・聞くことに慣れる

深い学びの技法をいつ、どう使えばよいのでしょうか。単元や授業を構想する際に、授業者が行おうとする活動と、深い学びの技法を照らし合わせて、意味付け・価値付けを試みるのはどうでしょうか。

なぜその活動を行うのか、何を意図するのか、というセンスメイキングの視点を持ち、どの技法にあたるかを照らし合わせることで、深い学びの技法は活動を行う根拠になると考えます。

また、このように深い学びの技法によって意味付けされた活動が適切であったかどうかは、生徒の振り返りや授業者の自己評価により、次の学びにつながったり、改善が図られたりしていくのではないかと考えます。

英語 重点方針

学習指導要領（外国語）の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。

- CAN-DO リストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。
- 学習指導要領に示されている 4 技能 5 領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りがないようバランスよく指導する。
- 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。

英語 <上越地区／糸魚川市中教研>

11月11日(火) 研究会開催

研究主題：理由や根拠をもち、自分の考えや意見を表現できる生徒の育成

単元名：「3年：PROGRAM 6

The Great Pacific Garbage Patch」

会場校：糸魚川市立能生中学校

公開：1学級

授業者：石野 佑紀枝

指導者：上越教育大学 教授 大場 浩正 様

上越教育事務所 指導主事 久保 成毅 様



研究推進責任者
糸魚川市立糸魚川東中学校
森 瑤子



教科・領域担当者
糸魚川市立能生中学校
石野 佑紀枝

こんな深い学びの姿を目指します

理由や根拠をもち、自分の考えや意見を表現できる生徒の育成を目指します。生徒はコミュニケーションにおける目的・場面・状況に応じて、知識や技能を関連付けたり読んだ内容を踏まえたりしたうえで、仲間と関わり合いながら言語活動を繰り返すことで、自らの考えを練り上げていきます。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→「深い学びの技法」のNo.3）

コミュニケーションを行う目的・場面・状況が明確な課題を設定し、単元のスタート時に生徒と教師が共有する。

これにより、生徒は言語活動において「見方・考え方」を働かせ、言語面・内容面での思考を深めていきます。

ポイント2（思考、解決の過程→「深い学びの技法」のNo.8・9・10）

思考を深める・練り上げるための協働学習の場を設ける。

思考を深める問いを使った生徒同士でのやり取りや、言語活動での中間指導の場を経て、生徒は自分の考えを再構築していきます。

ポイント3（表現の過程→「深い学びの技法」のNo.15・16）

課題や学習内容に合わせて、生徒が思考を深めるための工夫をする。

ホワイトボードやICTを用いて考えの過程を視覚化することで、生徒は論理的に自らの意見を表現します。

単元(題材)の様子

コミュニケーションを行う目的・場面・状況が明確な課題を設定し、生徒と教師が共有することから単元の学習が始まります。生徒はここで実際に課題に取り組むことで、課題達成のために何が必要かを考えます。

単元を通して類似の言語活動に取り組んだり、教科書本文の内容を読んでいたりして、単元目標の達成に向けて生徒は学びを深めていきます。

ポイント1

帯活動のsmall talkでは、生徒は互いの考えを深め、会話を継続する練習を行っていきます。聞き手は話し手に対して、“Tell me more.” “For example?” “Tell me the episode.”などのオープンクエスチョンを使い、話し手の話題を深掘りする手助けをします。

これにより、一つの話題について自分の考えを深めていくことができるようになります。好きなものをただ羅列するレベルから、“I like matcha because it's sweet.” “I often eat matcha ice cream.” “I ate matcha on a school trip last year.”とより考えの深まった発話が見られるようになります。



ポイント2

パフォーマンス課題に向けた類似タスクを設定し、言語活動を経て中間指導を行います。「言いたかったけれど言えなかった」表現等を生徒同士、全体で対話しながら、解決策を見つけ、パフォーマンス課題に向けて表現などを蓄積していきます。



ポイント2

生徒同士でのやり取りでホワイトボードを用いたり、中間指導においてICTを活用したりします。

これにより、自分の考えを視覚化し、論理的に考えを表現する生徒を育成します。

ポイント3

研究会

研究会では、海洋ゴミ問題について読んだうえで、retellingに自分の意見や考えを加え、伝え合う活動を行う予定です。

環境問題について自分事として捉え、課題を達成するために、仲間と言語活動を通して自身の発話を練り上げていく生徒の姿をご覧ください。

ポイント1・2・3



単元末には、海洋ゴミ問題に立ち向かう青年活動家にあてた、彼の活動についての感想や地元の海のために自分ができることを伝える手紙を書きます。(パフォーマンス課題)

英語 <中越地区／加茂市・南蒲原郡中教研>

11月26日(水) 研究会開催

研究主題：目的・場面・状況に応じて、伝えたい内容を適切な表現を用いて伝えようとする生徒の育成

単元名：「3年：Lesson 5 Translating Culture」

会場校：田上町立田上中学校

公開：1学級

授業者：伊藤 エリカ

指導者：新潟大学附属長岡中学校 教頭 川田 昌宏 様



研究推進責任者
加茂市立須田中学校
渡邊 未緒



教科・領域担当者
田上町立田上中学校
伊藤 エリカ

こんな深い学びの姿を目指します

言語活動をすすめる目的や場面・状況を正確に理解し、自分の伝えたいことと知識、表現を結びつけながら、相手に自分の伝えたいことが正確に伝わることを楽しんでいる姿を目指します。

ALTの故郷であるフィリピンの学生との交流を通して、仲間とともにゴールに迫る過程で、英語が自分にもたらす有用性にも気付いていきます。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（解決の過程→「深い学びの技法」のNo.9）

複数単元を通して、既習事項を含めた「話すこと（やり取り）」から始まる授業を展開する。

やり取りの中での言語知識を蓄積・修正し、自分の伝えたい内容をより詳しく正しく発信できるようになります。

ポイント2（解決の過程→「深い学びの技法」のNo.10）

個人的思考から、仲間との練り合いや練り上げをする学習課題を設定する。

仲間の表現を自分の表現に生かしたり、互いに協力したりして、より伝わりやすい表現に調整します。

ポイント3（表現の過程→「深い学びの技法」のNo.14）

単元ゴールを示すモデル文の提示と、各ステップにおける振り返りを充実させる。

ゴールに向かって生徒が見通しをもって学習に取り組み、個やペア、グループでの学びのプロセスを振り返ります。

✎ 単元(題材)について

本単元では、相手の知りたい日本文化について、正しい英語表現を使って伝えます。そこで、フィリピンの学生と、オンライン会話を行い、さらに、伝えきれなかった内容や、もっと伝えたいと思った内容を、メールで伝えることをゴールとします。彼らから日本のマンガやアニメ、音楽や言語など、興味のあることを聞き出す活動を継続して行い、自分の伝えたい事柄について、関係代名詞節を使って説明します。その過程で、相手の理解が深まるために、どんな表現方法が適切かを考え修正し、より良い英語表現を求めていく場面を設定します。

✎ 単元(題材)の様子



相手の日本文化に対する興味を知るには、どんな質問をすれば良いのか。さらに聞き出した興味をより詳しく知るには、どんな質問を加えていけば良いのか。実際のコミュニケーション場面を想定し、ペアでのsmall talkを繰り返します。話した内容を、自分自身または仲間と修正し、small talk bankに蓄積していきます。中間指導では、教員が適切な文にリキャスト(言い直し)したり、適切な発音でリピート(繰り返し)させたりすることで、自分の伝えたいことを、より正しい英語で表現できるようになります。そうすることで、フィリピンの学生とのコミュニケーションが良好となり、結果として楽しみながら活動に取り組むことができます。

ポイント1

間違いを恐れず英語を話すことができ、互いに認め合い、学び合える学習環境づくりを前提として活動します。フィリピンの学生が知りたい日本文化の内容及び、表現を深めるために、自分の考えを整理していく段階で、ペアやグループで練り合いを重ね、伝えたいことを決定していきます。また、オンラインでの会話を文に書き出し、文法や言語使用の間違いを修正し合います。

正しい発音で話しているかは、AI機能も使いながら、相手にとってより分かりやすい英語に近づけていきます。

ポイント2

教師が作成したモデル会話を聞く、モデル英文を読むことで、文の構成や会話量、記述量の見通しをもてます。また、相手の知りたい日本文化をより詳しく説明するためには、自身の正しい日本文化の理解や、関係代名詞節の使い方などが必要となり、それらの身に付けなければならない知識・技能の必要性に気付くことが、主体的に学ぶ動機となります。

教師、生徒間の適切なフィードバックで学びを調整することが生徒の深い学びとなると共に、フィリピンの学生との交流の中で、自分の伝えたいことが実際に伝わった喜びが達成感となり、次の学びにつながります。

ポイント3

研究会

学びの技法を用いた公開授業を研究推進委員のメンバーで参観し合い、教員同士の学び合いを次の授業に生かします。



英語 <新潟地区／新潟市中教研>

11月6日(木) 研究会開催

研究主題：つながりのある言語活動の中で、表現を広げ、
学びを深めていく生徒の育成

単元名：「3年：Lesson 5 Translating Culture」

会場校：新潟市立亀田西中学校

公開：1学級

授業者：砂井 友朗

指導者：新潟市教育委員会学校支援課

指導主事 齋藤 まゆみ 様

新潟市立総合教育センター

指導主事 佐藤 優子 様



研究推進責任者
新潟市立寄居中学校
風間 皓介



教科・領域担当者
新潟市立亀田西中学校
砂井 友朗

こんな深い学びの姿を目指します

当英語部がこれまでの研究で積み重ねてきた「主体的・対話的な学び」を「深い学び」へとさらに発展させるため、各活動を単元末の課題につながるよう構成します。これにより、生徒たちは明確なゴールを意識しながら、個々の活動の必要性を感じ、表現の幅を広げ、学びを深めていくことを期待しています。

主な手立て（『学習過程』と『深い学びの技法』の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→『深い学びの技法』のNo.1）

教科書の題材、単元末課題等について、興味関心を高めたり、自分の経験との関連性を持たせる（知識の関連付け）

これにより、生徒は教科書本文や単元末課題を身近に感じたり、自分事として捉えたりすることで、主体的、意欲的に学習に取り組むようになります。

ポイント2（思考の過程→『深い学びの技法』のNo.8）

獲得した知識・技能を活用し、生徒同士で発表したり、やり取りしたりする（知識の活性化）

これにより、学習した文法項目や教科書本文等の知識・技能が定着し、それらを用いた表現活動ができるようになります。

ポイント3（表現の過程→『深い学びの技法』のNo.15）

単元末課題等に向け、自分の考えを発表したり、やり取りをしながら、考えを広げ、深めていく（探究）

これにより、生徒は獲得した知識・技能を活用しながら、「深い学び」を実現していくようになります。

単元(題材)の様子

新潟市中教研英語部は、部員数が150名を超えるため、東西2ブロックに分かれて公開授業を行なっています。以下に紹介するのは、昨年11月に1年次の研究として公開授業を行なった高志中等教育学校と小須戸中学校での公開授業の様子です。

ポイント2・3

高志中等教育学校では、3年生『Lesson 6 Imagine to Act』を題材に、全13時間中12時間目の授業を公開しました。

単元末課題を「If you could get a superpower, what would you get?」とし、仮定法過去を用いて自分の考えや気持ちを書く活動を設定しました。

前時まで、生徒はマインドマップ等を用い、事前準備を進めてきました。研究会では、それらを用いて英語を書く活動を行い、その後、ペアで伝え合う活動を行いました。

指導案を構想する段階で、「生徒たちが伝えたいと感じるテーマは何か」について何度も議論を重ねた結果、当日は自分の考えや気持ちを伝えたい、知りたいと意欲的に書いたり、聞き合ったりする姿が見られました。



ポイント1・2

小須戸中学校では、3年生『Lesson 5 I Have a Dream』を題材に、全9時間中2時間目の授業を公開しました。

1時間目に、単元の目標「国際交流イベントで、自分の住んでいる町や文化について効果的にアピールするにはどうしたらよいだろうか」を提示し、単元のゴールを生徒と共有しました。

研究会では、関係代名詞を含む文を用いて、グループごとに異なる小須戸の町や文化についてALTに対して即興で説明する活動を行いました。

明確な場面・目的・状況を設定したことにより、生徒たちは悩みながらも、互いに意見を出し合い、関係代名詞を用いて、何とかALTに自分たちの住む地域のことを伝えようと、主体的に活動に取り組んでいました。



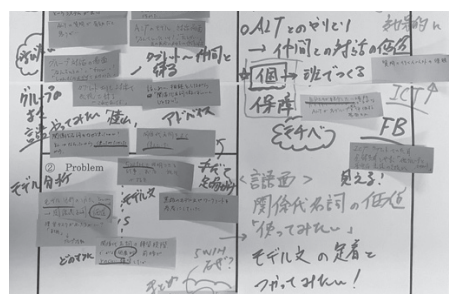
研究会

ポイント3

研究会では、『Lesson 5 Translating Culture』を題材に、英語でやり取りをする授業を公開します。

ALTからの要望に対して、生徒一人ひとりが選択した『日本のおすすめの○○』を伝える単元末課題に向けて、単元を通してやり取りの質と量を段階的に高めたり、増やしたりしていきます。公開授業では、これまでに培った生き生きとしたやり取りの様子をぜひご覧ください。

協議会では、KPT法を用いた授業研究に加え、参加者が持ち寄った「深い学び」や、今年度改訂された教科書を活用した実践について協議します。昨年度の一斉研修(右写真)のように、今年度も公開授業での生徒の姿をもとに、実りある活発な議論が展開されることを心より期待しております。



英語 <下越地区／佐渡市中教研>

11月14日(金) 研究会開催

研究主題：深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～

単 元 名：「3年：Lesson6 Being Fair Project2 30秒CM」

会 場 校：佐渡市立相川中学校

公 開：1学級

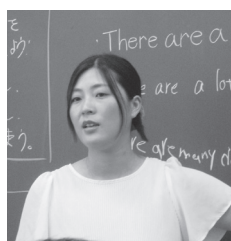
授 業 者：安田 夏怜

指 導 者：新潟県立教育センター 指導主事 袖山 司 様

佐渡市教育委員会 指導主事 源田 洋平 様



研究推進責任者
佐渡市立両津中学校
小黒 淳一



教科・領域担当者
佐渡市立相川中学校
安田 夏怜

こんな深い学びの姿を目指します

生徒たちが、自分事として見方・考え方を働かせ、興味・関心と目的意識をもちながら学びを深め、表現しようとする姿を目指します。他教科の学習と関連させた単元を構想し、積み重ねた既習の知識や技能を活用して、活発に思考し表現しながら仲間と練り合いや練り上げをすることで、生徒自らがこだわりをもってより良い発表内容を追求していくことを期待します。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→「深い学びの技法」のNo.3）

単元末課題について、学んだ知識や他教科の活動をもとに興味・関心のある視点を選んで思考し、表現する。

これにより、題材や課題が生徒の身近なものになり、自分事として考え、表現しようとするようになります。

ポイント2（解決の過程→「深い学びの技法」のNo.9）

毎時間、単元ゴールに向けて自己表現活動を取り入れ、学びを積み重ねる。

これにより、生徒は繰り返し思考や表現をするため、知識や技能の定着と活用が図られるようになります。

ポイント3（解決の過程→「深い学びの技法」のNo.10）

自分が表現したものを、言語面や内容面の観点から生徒同士や教師との間で練り合いや練り上げをする。

これにより、生徒たちの中で学び合いが機能し、より良い表現を目指して再考し、改善するようになります。

単元(題材)の様子

今回、総合的な学習の時間「SDGsとまちづくり～世界遺産のまち相川～」の学習と関連させて単元を構成します。まちづくりに「Fairness(公平さ)」は重要な要素と捉え、その上で自分が興味・関心があるまちづくりの視点を選び、様々な国の人に相川を知って大切にしてもらうための30秒CMを作成する活動を展開します。



ポイント1

Lesson5 I Have a Dream

◎人権問題に立ち向かった人の考えや行動を参考にして、身近な社会でみんなが気持ちよく暮らせるために自分にできることを英語で宣言しよう。

宣言文に書いている内容を分析しよう。



I think that women and girls don't have equal rights. In my home country of Pakistan, many girls and women can't go to school. In 2012, I was shot in her home country of Pakistan. Because I was against the Taliban crackdown on women's education. I can fight for people's right to equal education. I hope that all women and girls have education.

マラクさんは宣言文にどんなことを書いている？

ポイント2

1年次は、「人権」をテーマとし、道徳や人権教育、同和教育と関連させて授業を行いました。今回は、総合的な学習の時間の活動と関連させて単元を構成します。毎時間の英語授業では、自己表現活動を設定し、知識や技能の定着と蓄積を図ります。また、英語授業にとどまらず、総合的な学習の時間に得た知識や考えも活用し、まちづくりのアイデアを練ったり英語で表現したりします。これにより、英語と他教科の双方の知識や技能が生かされ、自分の意見や考えを形成し、表現することができると考えます。

1年次は、「人権」をテーマに自分の意見を書くという単元末課題に向けて、学習モデルを用いながら蓄積した表現を活用し、同じテーマを選んだ仲間と集まって練り合ったり練り上げたりしました。しかし、テーマが「人権」ということで表現が難しく、生徒同士の練り合いがうまく働きませんでした。生徒同士の練り合いに加え、教師とのやり取りも踏まえた「中間指導の工夫」が課題だと感じました。そこで今回は、練り合い・練り上げのタイミングや回数、観点や内容を工夫します。これにより、自分の意見や考えを再構築し、より適切に表現するコミュニケーション力を高めます。



ポイント3

研究会

研究会では、『Project2 30秒CM』を題材に、『Lesson6 Being Fair』で学習した関係代名詞や「Fairness(公平)」について考えたことを基に、生徒一人一人が作成した「相川を知って大切にしてもらうためのCM」の原稿や発表を生徒同士、または生徒と教師で練り合う授業を公開します。

総合的な学習の時間で考えたことや単元を通して積み重ねた知識や技能を活用して、内容面と言語面から練り合い、より良いものを創り上げていこうとする姿をご覧ください。

公開授業後の全体会では、研究の概要説明、ワールドカフェ形式による公開授業や「深い学び」の実践についての協議、指導者による助言、「私の一步」を考える振り返りを行います。生徒が生き生きと学ぶ授業を目指して、一緒に考えましょう。

